



○ 絵本で心を育む

本年二月、「道徳のまち笠松のつどい」で、柳田邦男先生に講演いただきました。子ども達を元気づけ、その人格形成を促すことは道徳のまちの基本

であると強調されました。子どもの心を育むには、大人の態度と絵本の読み聞かせが大切であり、「子どもをダメにする十カ条」や絵本「子ども読み聞かせ十カ条」のお話をいただきました。

○ アタッチメント

さらに、絵本の読み聞かせが子どもと共に心を育むとして、「ぞうさん、だいじょうぶだよ」などの絵本の話を読みました。絵本に共に向き合うことにより親として人としての想いが子どもの心に浸みこみ、アタッチメント（早期愛

着関係）が形成され、将来にわたる子ども達の社会性や感受性、学習能力を育むことになると強調されました。

○ 読み聞かせのボランティア活動

現在、絵本の読み聞かせは、日本各地に広がっています。町内には、絵本の読み聞かせ活動をしている

ボランティアグループ「かみふうせん」があります。

絵本の読み聞かせでこころを育む！



五月二二日、朝八時、下羽栗小学校の玄関に五名の女性が集合。この時間帯は、主婦として家庭内の切り盛りをする多忙な時間。その中で、やりくりして集まったのは、朝の会で一・二年生の子ども達に絵本の読み聞かせをするため。教室前半分の床に腰をおろしてボランティアさんを待つ子ども達。紙芝居や絵本をもったボランティアさんが教室に入り、あいさつを交わ

し、読み聞かせが始まります。二十数名の子ども達は、その声に引き寄せられ、眼は絵本に釘づけとなります。耳を空飛ぶゾウ「ダンボ」のように大きくして聞きます。やさしい読み聞かせの声が静かに教室内に響く。お母さんの声に重ねて聞いているのでしょうか。驚くばかりの集中力。そっと、子ども達の目を見る。静かに心が芽生え始めるのが感じられます。



目で見、耳を澄まして聞き入る子ども達